

地域おこし協力隊活動報告書

活動団体	南九州市茶業振興会
役職	
氏名	窪 拓摩
着任日	令和3年2月1日

活動月	令和7年3月(着任4年2ヶ月)
主な活動	1.地域おこし協力隊任期満了のご挨拶 2. 地域おこし協力隊終了報告会の実施 3.特定地域づくり事業協同組合 視察研修@与論島

1.地域おこし協力隊任期満了のご挨拶



写真: 当市で6回目の新茶シーズンを迎えます@穎娃町

パンデミック真っ只中の2021年2月に地域おこし協力隊に着任し、あっという間に4年2ヶ月が経ち、気づけば当月が協力隊活動の最終月となりました。
協力隊の着任前から知覧茶と関わる仕事をスタートし、南九州市での活動は、3月末でのべ丸5年になります。正直な気持ちとしましては、まさかここまでの時間、南九州市に根付き、未知の領域であった「茶業」にドブブリと浸かるとは思っておりませんでした。
損得勘定や任期後の生業づくりなどは後回しに、ただただ、ひたすらに「知覧茶」と向き合い走り続けた日々でした。

地域おこし協力隊活動報告書

茶業関係各所のみなさまをはじめ、南九州市役所職員のみなさまや関連企業の方々、個性豊かな地域おこし協力隊のメンバーなど、本当に多くの方々にこの場をお借りしまして厚くお礼申し上げます。

次月からは、同じく南九州市にて初のポジションとなる「地域プロジェクトマネージャー / 知覧茶ブランドマネージャー」として晴れて着任が決まりました。今後名実ともに「日本一の茶産地」となるための重要プロジェクト活動を進めてまいります。

引き続き茶を中心とする活動が続くところで、当月を一つの節目として、地域おこし協力隊時代の思い出にしっかりと浸りたいところではございますが、茶最盛期を目前に控えておりますためそうもいかず、引き続きトップスピードで駆け抜けていきたいと思っております。

引き続き、よろしくお願いいたします！

2.地域おこし協力隊終了報告会の実施



写真：県内各地で活躍中の協力隊同期メンバーとの報告会の様子@鹿児島県庁

当月を持って協力隊を終了される県内メンバーを中心に、鹿児島県庁にて終了報告会を実施いたしました。意外にも、着任している市町村の枠を越えての報告会や情報共有をする機会が多くなかったため、今回は、現在活躍中の協力隊や行政関係者、協力隊OB/OGなどに参加いただき、多方面の活動ジャンルでの報告会となりました。

私は、パンデミックで影響を受けた時期に協力隊活動をしていたことによる任期特例の対象となり、最大任期期間3年+αで協力隊活動をしております。他の多くの協力隊隊員も同様に活動延長をされており、限られた発表時間ながら凝縮された情報が盛り込まれ、非常に濃厚なイベントとなったかと感じております。

地域おこし協力隊の最終的な着地点や、協力隊の存在意義、生業づくりと着任した場所での業務の棲み分け、会計年度任用職員の立場と独立に向けた取り組みの認識など...

実は抽象的な立場、ポジションのなかで着任する市町村ごとのカラーを吸収しつつ柔軟に活動していくハードルの高さ、悩みなどを「同志」と共有し、解決に向かって語り合う場は、今後も非常に重要であると、次月よりOBとなる立場として感じます。

3.特定地域づくり事業協同組合 視察研修@与論島



写真:ヨロンまちづくり協同組合事務所視察の様子

ここ近年、当市も例外なく「人手不足」の課題が深刻になっており、各方面の作業現場や市の議会の質問で上がってくるなど、直近で取り組まなければならない重要ミッションとなっています。

当月は、地域事業者で設立した「事業協同組合」が雇用主となり、組合員に職員(担い手)を派遣することで、人材を確保する『特定地域づくり事業協同組合』を鹿児島県内で既に取り入れて取り組んでいらっしゃる、与論島のヨロンまちづくり協同組合へ視察研修を実施しました。

当月の視察前には、鹿児島市にて開催されたシンポジウムにも出席しておりまして、鹿児島県内の7組合の事例をお聞きしておりましたが、実際に運営をされている現場での話しをお伺いすると、より現実的な課題やフォロー体制の組み立て方の方法等リアルな感触を掴むことができました。

(各現場間のシフト調整 / 組合員や職員の募集 / 組合員と職員のフォロー / 給料計算など...)

様々な課題が見えてきた中でも、ポイントとなるのが「複数の業種で組合をつくること」、「行政 / 民間 / 職員にリーダー的な方の人為配置がありバランスが取れていること」などが挙げられます。

とても魅力的な制度でありつつ、取り組む市町村ごとのカラー(特色)にマッチする / しないが割とはっきりとみえる制度でもあるなと感じたところです。



地域おこし協力隊活動報告書

写真:(左)土曜日の百合ヶ浜海岸清掃 / (右)日曜日の大金久海岸清掃

そのほか、島外からの移住者も多い与論島では、毎週末土日の早朝に海岸清掃を実施しているということで、参加をいたしました。

とても感銘を受けたのは、地元の方々だけでなく旅行者や移住者の方々が「自主的」に集まり、一つのイベントのように組み立てられることです。

さらに、長年この活動を「継続」をされているということで、地域活動における高いハードルとも言える「継続」をクリアし、ローカルと一見を融合させた取り組みとなっている素晴らしさを実感し、大変勉強になりました。

以上、当月の報告といたします。